
**マッチングの試行 及び
支援証明書モデル的試行WG
の進め方について**

1. マatching、支援証明書試行の概要 (インセンティブ検討会資料抜粋)

1. マッチング、支援証明書試行の概要

1.1. インセンティブ施策について（課題と方針）



インセンティブに関して対応すべき課題

【専門知識・人材の不足】

- 申請時において、申請者自らで申請書類の作成やサイト内の情報収集することが困難な場合が存在。その際のサポート体制を整備することが重要。
- 認定の信頼確保及び活動主体の適正な負担を両立した管理・モニタリング手法を示すことが重要。

【多様な主体の参画】

- 民間企業、自治体等の多様な主体の参加を促進するための仕組み（経済的なインセンティブを含む）が重要。
- 企業が自然共生サイト認定や管理の支援に取り組むためのストーリー構築が重要。
- 地域での課題解決につなげていくための地方自治体との連携が重要。

【サイトの質の維持・向上】

- 自然共生サイトの所有・管理を行う主体が経済的、人的支援を得られる仕組みが重要。

インセンティブに関する課題への対応方針（案）

【伴走支援】

- 申請時のサポート、専門家派遣等が可能となるようなポータルサイトの構築等を行う。
- 認定された管理主体が自立・継続的にモニタリングできるような手法の技術開発、マニュアルの整備等を行う。※予算要求上は別項目

【多様な主体の参画を促す取組】

- 自然共生サイトの所有管理・支援を行う企業等がTNFD等において活用できるようなストーリー構築の支援を行う。（モデル的試行を実施）
- 経済的インセンティブについては、まずは既存の制度や事業等を活用。法案の検討と整合を取りつつ、新たな仕組みについても検討する。

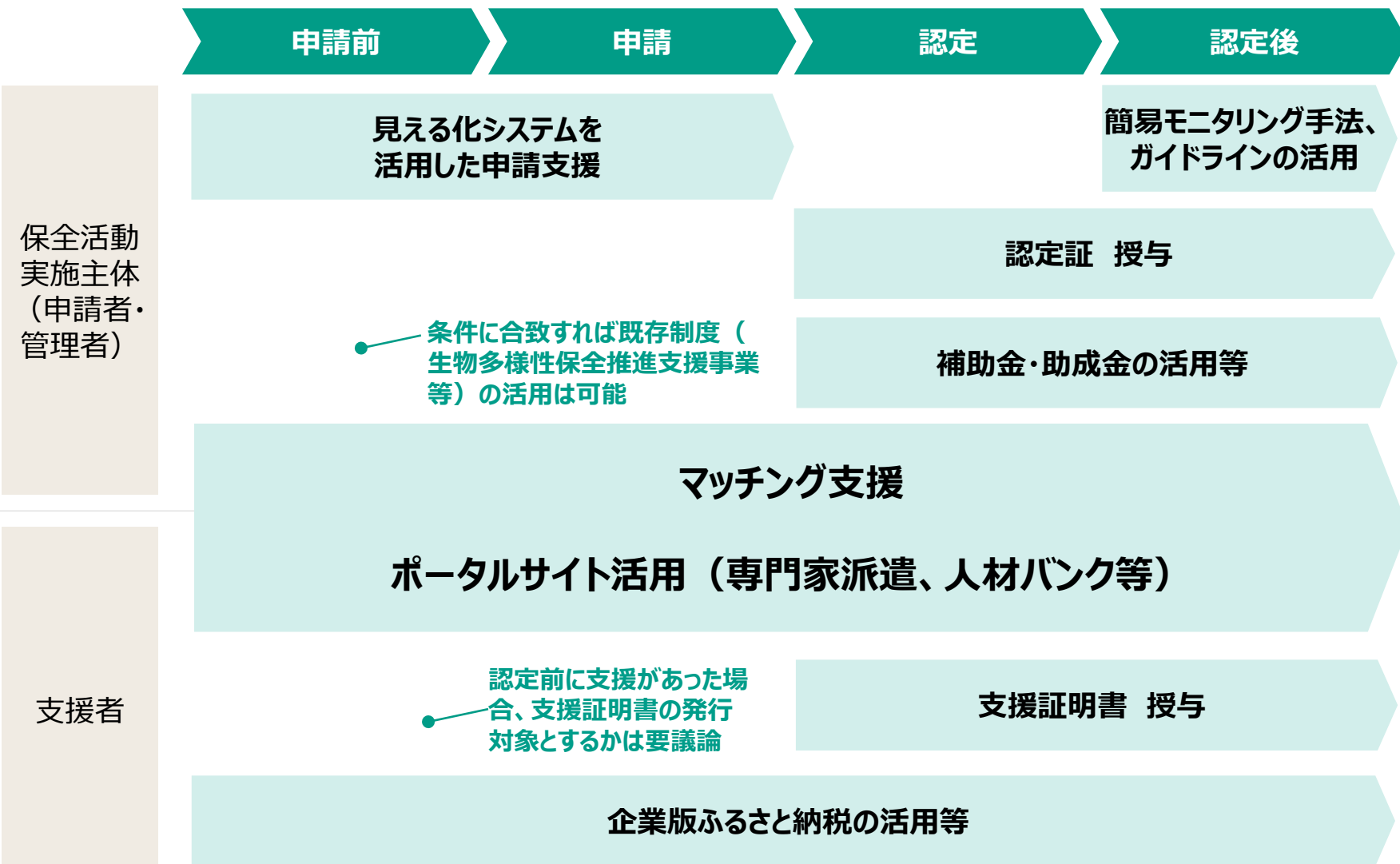
【支援証明書制度の構築】

- 自然共生サイトの支援を行った主体に対してその支援内容を証明できる仕組みを早期に構築する。（支援証明書、マッチングの試行を実施）

1. マッチング試行、支援証明書の概要

1.2. インセンティブ施策の全体像

- 保全活動実施主体（申請者・管理者）及び支援者が自然共生サイトの取組において、各フェーズで活用・受けることができるインセンティブの一覧（案）を以下に整理した。

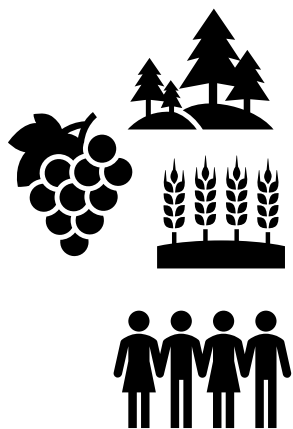


1. マッチング試行、支援証明書の概要

1.3. 貢献証書の名称、位置づけ等の再整理

- **変更点①**：保全活動の実施主体（自然共生サイトの所有・管理者）は**認定証**が発行され、認定自体がインセンティブとなるため、別途貢献証書を発行する効果は小さいと考えられるため、貢献証書の発行対象は支援者のみとする。
- **変更点②**：また、当証書の位置づけは、生物多様性価値への貢献度等を証明するものではなく、支援行為自体を証明するものとし、**支援者**に対して発行する『貢献証書』と呼んでいた当証書の名称を『**支援証明書**』に変更する。

実施主体



① 認定申請



認定機関

② サイト認定 (認定証発行)



③ 貢献証書の発行



変更点①

支援証明書
発行機関

変更点②

④ 支援証明書の発行

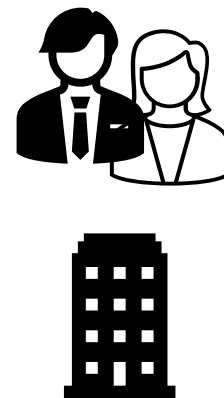


④ 貢献証書の発行



③ 支援実施（寄附等）

支援者



実施主体

認定証

※認定証の別紙に生物多様性の価値等が記載される予定であり、それらは環境省の認定対象となる

支援者

支援証明書

※支援証明書には証書発行機関で確認できる支援内容（事実関係）だけが記載される

自然共生サイトの認定も支援も、TNFD等の対応も視野に各企業等の本業に関連付けて活用するには**ストーリー構築が重要**。

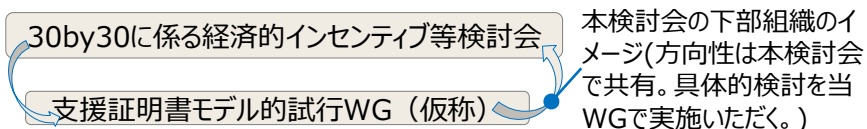
認定済自然共生サイト等と支援者（30by30アライアンスメンバーの企業等）を対象に**モデル事業（マッチング）**を実施し、認定および支援証明書の内容等についてWGで議論を行う。 ※詳細は後述

1. マッチング試行、支援証明書の概要

1.4. 認定証、支援証明書の活用及びマッチングの試行

- 認定および支援証明書の活用のためのケーススタディとして、前期に認定される自然共生サイト等の所有者・管理者と30by30アライアンスメンバー等を対象にした支援希望者とのマッチングを試行。
- 認定および支援証明書をTNFDにおいて活用できるものとして設計するため、当試行においては、認定証別紙や支援証明書の記載内容等について、実施主体および支援者となる事業者、金融機関等とともに検討し、ドラフトを作成するモデル事業を実施。
- 認定証別紙および支援証明書（ドラフト）の詳細設計においては、TNFD等への活用という側面や投資家から見た評価などを具体的に検討したく、「支援証明書モデル的試行WG（仮称）」を設置。

支援証明書モデル事業WG（仮称）の位置付け

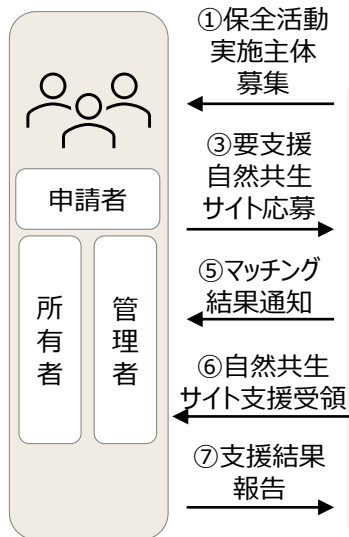


想定手順

- マイルストーン I : 第1回30by30に係るインセンティブ等検討会 (7/18)
- マイルストーン II : 環境大臣による自然共生サイトの認定
- 手順1. 支援証明書モデル的試行WGの実施方針確定
- マイルストーン III : 第2回30by30に係るインセンティブ等検討会 (10月上旬)
- 手順2. 支援マッチング試行のアナウンス
- 手順3. 保全活動実施主体・支援者募集/応募 (①,②,③,④)
- マイルストーン IV : 要支援者の活動報告会 (11月上旬)
- 手順4. マッチング結果通知 (⑤)
- 手順5. 支援証明書モデル的試行WGによる支援証明書(ドラフト)の内容検討・作成
- 手順6. 支援実施期間 (⑥)
- 手順7. 支援結果報告 (⑦)
- 手順8. 支援証明書(ドラフト)発行 (⑧)
- 実際の支援は今年度中が望ましいが、来年度でも可
- マイルストーン V : 第3回30by30に係るインセンティブ等検討会 (3月上旬)

企画イメージ

保全活動実施主体



マッチングサイト



支援者



- ①保全活動実施主体募集
②自然共生サイト支援者募集
③要支援自然共生サイト応募
④自然共生サイト支援者応募
⑤マッチング結果通知
⑤マッチング結果通知
⑥自然共生サイト支援受領
⑥支援実施
⑦支援結果報告
⑧支援証明書(ドラフト)発行

本紙

基本の記載事項（支援証明書発行機関にて証明する内容）

①サイトの情報

登録番号：100XXX
サイト名称：XXX公園
サイト位置：東京都XX区YYY
面積（サイト全体）：XXX ha
統治責任者情報：XXX
管理責任者情報：XXX
管理方法・機関：XXX

②支援内容

支援額：¥1,000,000
支援期間：令和6年度5月～8月
※非金銭的支援の場合はその内容を記載

基礎項目

インプット

別紙

特記事項（別紙／支援者が任意で作成する内容）

生物多様性地域戦略等における公的位置づけ
地域課題の解決に係る貢献内容
サイト内で実施されているプロジェクトの具体的内容（管理体制、方法等）
本業との関連、支援者の知見、技術の支援

アウトカム
も含む

1. マッチング試行、支援証明書の概要

1.6. 支援内容の評価方法



- 支援証明書に記載する支援内容について、寄付金額等のインプット情報で評価するか、生物多様性やネイチャーポジティブへの寄与度合等のアウトカムで評価するかは1つの論点である。
- 貢献度を明確に示すところができる指標がない等の理由で、支援証明書に記載するのは支援時点でのインプット情報のみとし、支援したことによる効果等のアウトカム情報は任意に特記事項として記載することとしたい。

インプットで評価

支援による効果で評価

支援
内容

- 経済的支援
- 人為的支援
- 技術的支援
- 物的支援 等

- 支援したことによる効果
(生物多様性への寄与度合い等)

課題

- 生物多様性やネイチャーポジティブへの影響を測定するための指標ではない

- 貢献度を測定するための明確な統一的な指標が存在しない
- 支援の影響が直ぐに反映されるとは限らない

考え方・
対応方針

- 事実として証明できる**インプット（支援額等）情報のみを用いて支援証明書を作成**
- **支援証明書の活用方法は企業等の支援者にて検討し、支援証明書の評価は相対取引に委ねる**

- 支援したことによる効果など**測定しうるアウトカム情報は特記事項として、支援者が実施主体と調整の上、任意に記載。**
- ただし、**任意に記載する際の記載方針や留意点については一定のルールが必要。**制度の運用開始までに整理の上、提示。
- 今後、確立された評価指標等が開発された場合には、**支援証明書本体の基本の記載事項に加えることを検討**

1. マッチング試行、支援証明書の概要

1.7. 生物多様性地域戦略策定の手引きにおける記述

地域戦略の位置づけ

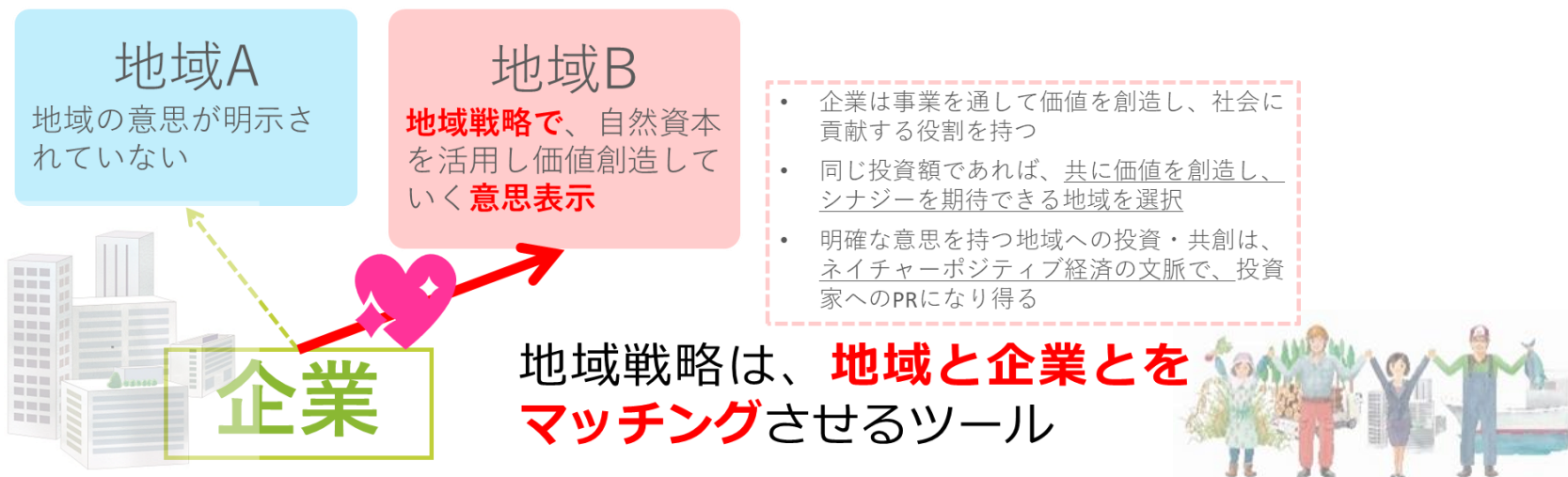
○生物多様性地域戦略は地域課題の解決に資する戦略
 今や多くの民間企業は生物多様性の回復につながる事業機会を探しており、地域戦略により地域のメッセージを明確に発信することで地域と企業とをマッチングするツールとなる。

生物多様性地域戦略策定の手引き（令和5年度改定版）における記載

第3章 第2節 民間企業とのコラボレーションや周辺地域との相乗効果

1. 新たな産業や事業投資の誘引（抜粋）

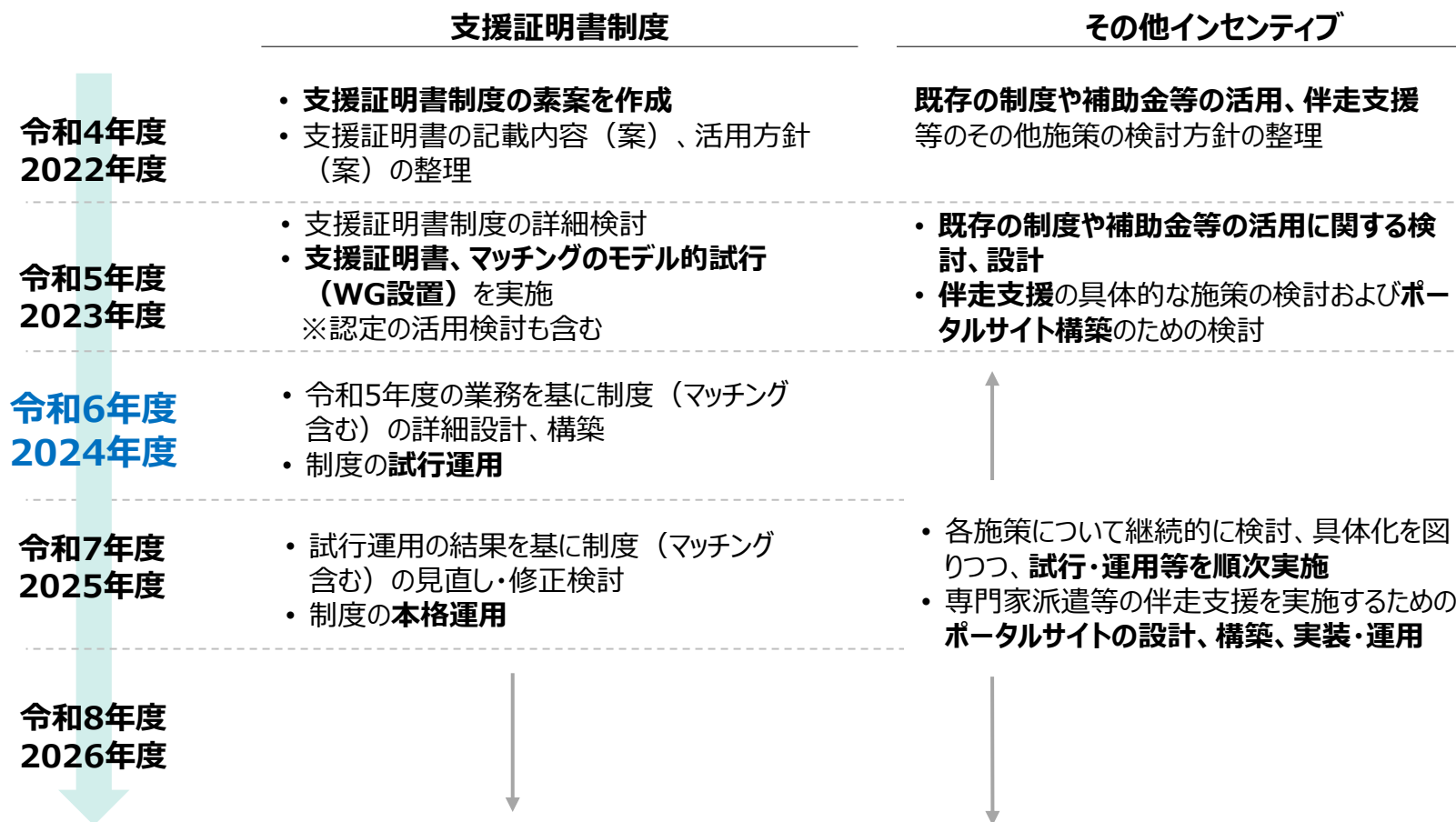
自然情報に関する財務情報の開示（TNFD）が必然化していく中で、生物多様性や自然資本を通じた価値創造に関して、明確な意思を持つ地域は、コラボレーション相手として非常に魅力的です。特に自社で自然資本を持たない多くの民間企業にとって自然資本を持続可能な形で管理しながら提供してくれる地域とコラボレーションすることは、同じ投資額でより多くの価値創造、社会的使命を果たすことができるので、企業価値を高める事にもつながります。



支援証明書制度に関する検討スケジュール

インセンティブの検討に係る中期的なスケジュール

- 支援証明書制度は令和7年度の本格運用の開始を目指し、制度の詳細検討を進めるとともに、令和5年度は支援証明書とマッチングのモデル的試行を実施、令和6年度は制度（マッチング含む）の構築および試行運用を実施します。
- その他インセンティブについては、既存制度の活用、他制度との連携や伴走支援等の検討とともにポータルサイトの構築に向けた検討や設計を実施します。



2. マッチング試行の実施方針、 実施方法について

2. マッチング試行の実施方針、実施方法について

2.1. マッチングに係る論点



- インセンティブ検討会にて、WGで議論・検討すべき点について、ご意見をいただいた。
- 各意見を内容ごとにまとめると、主に3つのテーマに対して検討を行うべきと示唆いただいたこととなる。

論点の要約

No	発言者（敬称略）	論点（要約）
1	角谷拓	自然共生サイト管理者に新しい視点・価値をもたらす支援者のマッチング
2	一ノ瀬友博	二次的な自然を管理しているサイトを対象としたマッチング
3	一ノ瀬友博	特定のサイトに支援が集中しすぎないように、募集条件の工夫
4	高川晋一	労力の提供（支援）
5	長谷川雅巳	技術の提供（支援）
6	角谷拓	アウトカムの視点を含んだ支援評価（インプットとアウトカムの間の視点による評価）
7	長谷川雅巳	自然共生サイトの所有者が管理にかけたコストや工数の評価
8	一ノ瀬友博	価値のグレード+面積 による支援の評価
9	高川晋一 / 長谷川雅巳	労力を数値化し、支援証明書に記載
10	竹ヶ原啓介 / 長谷川雅巳	上場していない企業に対するインセンティブ ⇒本WGにおいては、主に上場企業等を対象にTNFD対応への活用等について検討する

【WGのテーマ】

① マッチングの対象

場所・区分・主体等に偏りがない
マッチングを検討する

今回WGで議論→

② 支援の種類

形式を限定しない支援を検討する

←次回WG以降で議論

③ 支援の評価

単純な支援金額等のインプット以外
の評価方法を検討する

2. マッチング試行の実施方針、実施方法について

2.2. 令和5年度自然共生サイトの申請・審査状況

① マッチング
の対象

② 支援
の種類

③ 支援
の評価



- 令和5年度前期の結果はまもなく公表されるが、後期の申請受付も既に開始しているところ。
- なお、令和4年度の認定試行における、申請者属性は以下のとおり。

申請審査のスケジュール

■「前期」スケジュール

【申請受付】 4月3日～5月8日

【事務局予備審査】 5月～7月頃

【有識者審査】 8月中旬頃

【結果公表】 9月～10月頃

■「後期」スケジュール（予定）

【申請受付】 9月12日～10月13日

【事務局予備審査】 10月～11月頃

【有識者審査】 12月～1月頃

【結果公表】 2月頃

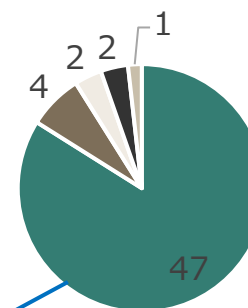
令和4年度試行サイトの申請者属性

申請数

56件（すべてが認定相当）

申請主体区分

- 企業
- 地方公共団体
- NPO・NGO
- 任意団体
- 合同申請



企業（47件）の内訳

株式会社
（内33件が上場企業）
39件

その他法人
（一般社団法人・社会福祉法人等）
8件

2. マッチング試行の実施方針、実施方法について

2.3. WGの議論対象（支援証明書及び認定証の活用）

① マッチング
の対象

② 支援
の種類

③ 支援
の評価



- 支援主体向けの**支援証明書の活用方法**に加えて、自然共生サイト等の所有・管理者向けに**自然共生サイト認定の活用方法**もWGで検討する。
- **マッチングの支援者及び自然共生サイト等（被支援者）の募集は一般公募**に対して、**認定の活用**は令和5年度前期の認定サイトを対象として、**メール等で直接ご連絡**し、希望者を募る。

A. 認定の活用

B. 被支援者

C. 支援証明書の活用

自然共生サイト等の所有・管理者
※想定対象は次ページ参照

自社の自然共生サイトを
TNFD等に活用したい

保全活動継続のため
支援が欲しい
(認定済若しくは認定を
目指す団体が対象)

支援者

**令和5年度前期の認定サイトを
対象に直接のご連絡（希望）**

マッチングで公募

- 想定する認定の活用方法案の事前提出
- 第2回WGへの参加

- 第4回WGへの参加

- 想定する支援証明書の活用方法案の事前提出
- 第4回WGへの参加

試行参加者

参加ルート

対応事項

2. マッチング試行の実施方針、実施方法について

2.4. 自然共生サイト所有・管理者及び支援・被支援者の対象

① マッチング
の対象

② 支援
の種類

③ 支援
の評価



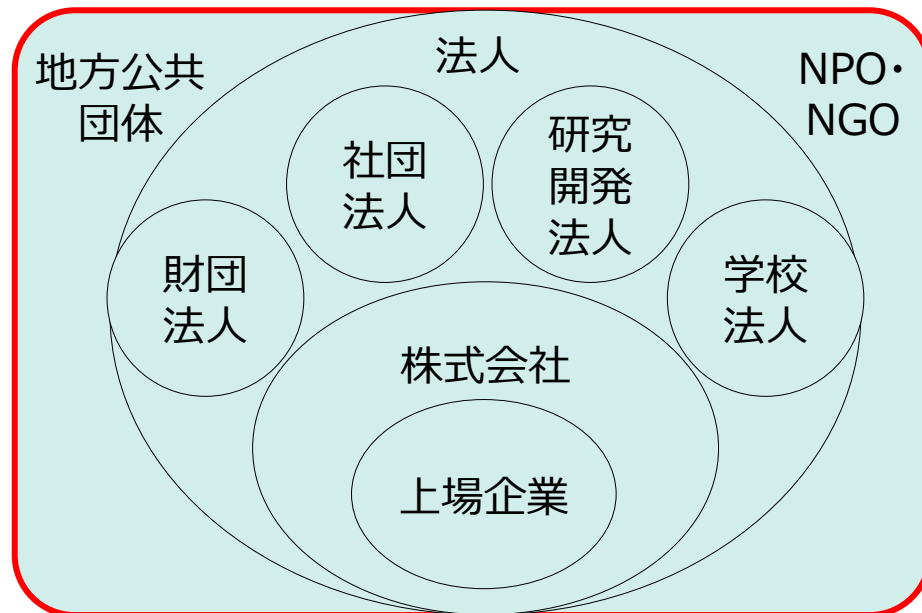
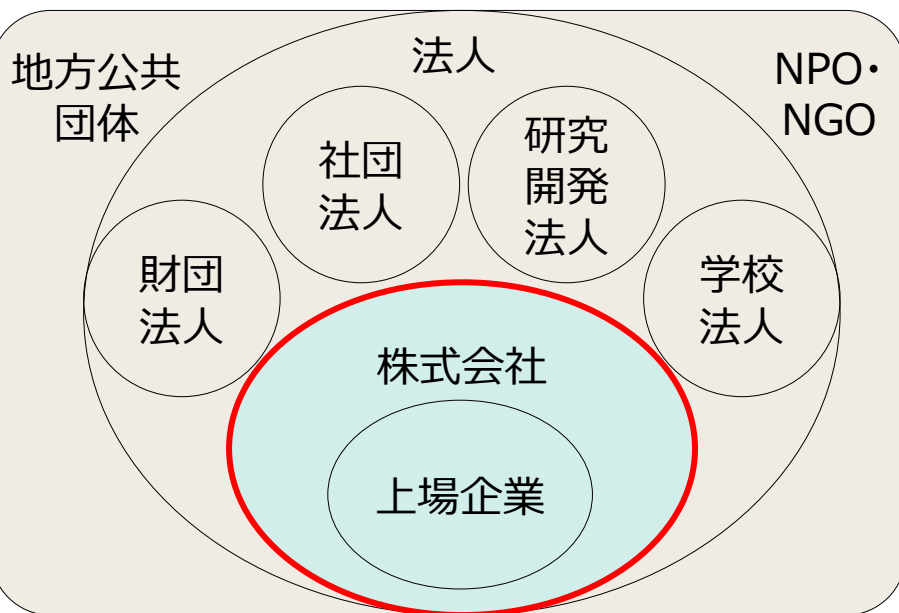
- 自然共生サイト所有・管理者の属性は法人・地方公共団体・NPO・NGOと様々だが、当WGにおいては、自然共生サイトの認定をどう企業価値の向上に活用できるかを検討すべく、自然共生サイトを所有する株式会社を対象に検討する。
- 一方で支援者、被支援者として、マッチングを行う自然共生サイト所有・管理者の属性は限定しない。

A. 認定の活用

認定の活用方法は、**株式会社を対象**にTNFD等の観点で、企業価値の向上にどう活用できるかを検討する。

B. 支援者、被支援者

支援者及び被支援者は、**対象を限定せず**、幅広く募集を行う。その上で、実際のマッチングの組合せを検討する。



2. マッチング試行の実施方針、実施方法について

2.6. 支援証明書の対象（狭義と広義の支援）

① マッチング
の対象

② 支援
の種類

③ 支援
の評価



- 保全活動の支援には、広義の支援と狭義の支援があると考えられるが、**支援証明書の対象**は広義ではなく、**狭義の支援である経済的リターンを目的としない寄付のみ**をであり、マッチングにおいても狭義の支援のみを対象とする。

広義の支援

支援者は自然共生サイト等から**経済的なリターンを得ることも可能**

狭義の支援 ⇒ マッチング及び支援証明書対象

支援者は自然共生サイト等から**経済的なリターンは得ないことが前提**

購入

該当サイトからのモノを購入し、販売することで経済的リターンを得る。仕入先の課題を解決することが社会的課題の解決につながることもある。

販売

モノまたはサービスを提供し、経済的リターンとして**対価を受け取る**。販売先の課題を解決することが社会的課題の解決につながることもある。販売に伴うアフターサービスも含む。

寄付

社会的課題解決を支える。投資家に対する**経済的なリターンは目的としない**。寄付金控除を受けることは出来る場合がある。

ネーミングライツの購入

土地の購入ではなく、支援者による**任意の名前を該当自然共生サイトに付与**することを意味し、**自然共生サイト側に金銭的な負担は発生しない**。

投資

経済的リターンのみを目的するものから社会的課題解も目的するものまでバリエーションがある。基本的には**資金の返済は不要だが配当の支払**を伴う。

融資（貸付・公社債）

経済的リターンのみから社会的課題解も目的するものまでいくつかのバリエーションがある。基本的には**元本の返済に加え、利息の支払**を伴う。

2. マッチング試行の実施方針、実施方法について

2.7. マッチングに係る募集要項

① マッチング
の対象

② 支援
の種類

③ 支援
の評価



- マッチングの募集を開始するにあたり募集要項を設置するが、記載する応募条件について整理したい。
- 募集要項には最低限の条件のみを記載し、応募を厳しく限定するような記載は避けたい。

自然共生サイト等の所有・管理者

支援者

【必須条件】

- 令和4年度の認定試行に参加した者、既に自然共生サイトの認定を受けている者、及び令和5年度後期・令和6年度中の自然共生サイトの認定を目指して既に活動を始めている者。
- 応募後、サイト状況や保全活動に関する事務局からのヒアリングにご対応いただけること。また、試行に参加することになった場合も事務局からの依頼や会議へのご出席にご対応いただけること。
- 当試行に参加いただいた者の名称、想定する支援内容、支援証明書（案）の内容を環境省HPや一般公開される有識者検討会にて公表することに同意いただけること。

【任意条件】

- 対象のサイトや活動に関するアピールポイント等を説明した動画（2～5分程度）を提出いただけること。

- 今後、TNFDへの対応等も視野に自然共生サイトの取組を支援する意思があること。
※ただし、TNFDへの対応を目的とすることを必須とするものではない。
- 提供する支援の内容及び、支援証明書別紙に記載する特記事項の案の作成にご協力いただけること。
- 応募後、想定する支援内容等に関する事務局からのヒアリングにご対応いただけること。また、試行に参加することになった場合も事務局からの依頼や会議へのご出席にご対応いただけること。
- 当試行に参加いただいた者の名称、想定する支援内容、支援証明書（案）の内容を環境省HPや一般公開される有識者検討会にて公表することに同意いただけること。

※支援の実施について

当マッチングにおいて支援者候補として選定された者は、実際に支援を行うことは必須条件となっております。事務局・WGとのインタラクティブセッションの結果を踏まえて、実際に支援することで得られるインセンティブ等を理解いただいた後に、実際の支援実施を各自でご判断いただくこととしております。

2. マッチング試行の実施方針、実施方法について

2.8. 応募フォーム



■ マッチングの参加者を公募するにあたり、必要情報を得るため、下記の質問項目を設ける。

自然共生サイト等の所有・管理者

支援者

基本情報

(所属 / 役職 / 担当者氏名)

希望する支援の種類

(金銭的支援 / 人的支援 / 技術的支援 / その他)

提供できる支援

(金銭的支援 / 人的支援 / 技術的支援 / その他)

支援を要する理由

支援をする理由

支援者に求める事項

(XX県に本社を構える / ○○業界の企業 等)

支援先のサイトに求める事項

(XX県内のサイト / 大規模な森林であること 等)

過去に受けた支援

(支援内容 / 支援提供者)

環境保全に係る過去の支援実績

3. 支援証明書モデル的試行WG の論点と進め方について

3. 支援証明書モデル的試行WGの論点と進め方について

3.1. WGにおける論点、アウトプット等

■ 昨年度までの検討状況等踏まえて、当WGでは主に下記の事項について検討を行う。

インプット

今年度当WGで議論いただきたい事項

WGのアウトプット

① 昨年度までの検討状況

1. マッチングの対象範囲

• 認定活用事例（案）

② 第1回検討会の論点

2. マッチングの組合せ

• マッチング結果

③ 令和5年度前期までの
自然共生サイト申請

3. 支援証明書の発行対象

• 支援証明書
（イメージ）

④ 当試行に参加する
企業等からのヒアリング

4. 支援証明書の記載内容

• 地域戦略等の地域
計画への示唆

5. 支援証明書の活用方法

6. 認定自体の活用方法

• 次年度の試行に向け
た課題の整理

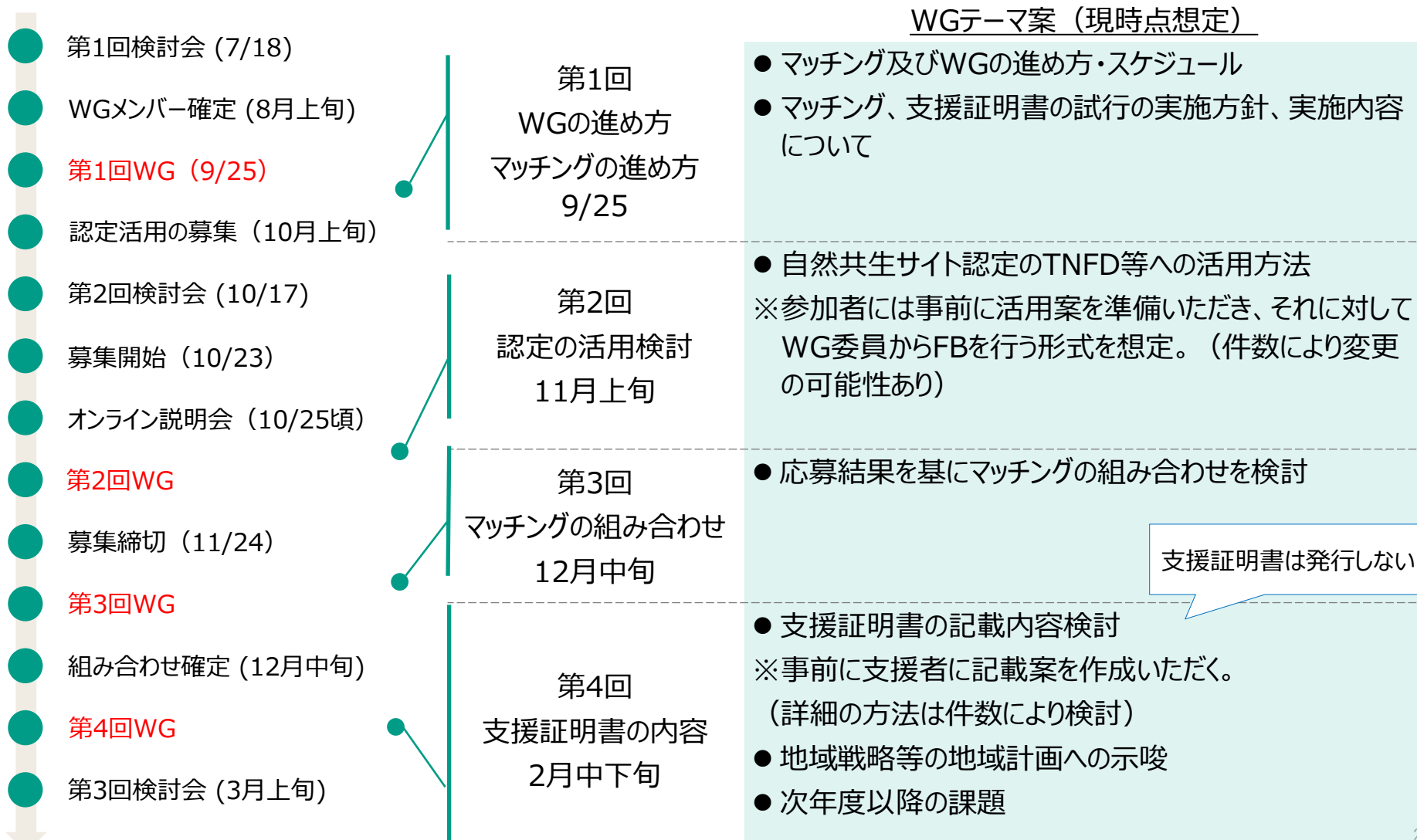
7. 地域戦略等の地域計画への示唆
（何を書けば支援を得やすいか）

8. 来年度以降の試行に向けた課題

3. 支援証明書モデル的試行WGの論点と進め方について

3.2. WGの開催スケジュール

- マッチングにおけるマイルストーンと、それらに沿ったWGの動き（想定）を下記する。
- 合計4回のWGの開催を想定し、それぞれの会で以下のテーマについてWGメンバーと意見交換を行う。



3. 支援証明書モデル的試行WGの論点と進め方について

3.3. 各回の参加者及びWG委員への依頼事項について



- 今年度実施する全4回のWGにつき、各回の参加者及びWG委員への依頼事項は以下のとおり。
- 第2回・第4回では募集・選定の結果確定した当試行の参加者に事前に活用案を提出いただき、WG委員の皆様にはその活用案に対するFBを実施いただきたい。

第1回WG (9/25)

第2回WG (11月上旬)

第3回WG (12月中旬)

第4回WG (2月中下旬)

参加者

- WG委員
- 事務局

- **認定を活用したい企業**
- WG委員
- 事務局

- WG委員
- 事務局

- **マッチングされた自然共生サイト等**
- **マッチングされた支援主体**
- WG委員
- 事務局

参加者準備

—

【認定を活用したい企業】

—

【自然共生サイト等】

【支援主体】

- 自然共生サイトの認定活用方法案を事前提出 (TNFDレポートに記載するとすれば、その記載内容等)

- 支援証明書別紙に記載したい内容案、支援証明書の活用方法案 等

委員への依頼

—

- 参加企業から提出いただいた活用案の事前確認

【パターンA】

- 支援主体から提出いただいた活用案の事前確認

【パターンB】

- 担当する支援主体からの事前相談を受け付ける

マッチングの組合せ数に応じて、下記いずれかの対応を想定
【パターンA】 委員全員で全ての組合せを第4回で確認
【パターンB】 担当を割振り、第3回～第4回の間で事前確認

4. 本日の論点

4. 本日の論点（ご意見を伺いたい事項）

■本日は、下記3つの論点を中心にご意見等いただけますと幸いです。

論点①：マッチング試行の実施方針について

下記の方針に対するご意見

- ✓ 支援証明書をTNFD等において活用できるものとして設計するため、当試行においては、支援マッチングの組み合わせや証明書の記載内容等を検討する。
- ✓ あわせて、自然共生サイト認定の活用についても議論の対象とする。

論点②：マッチングの実施方法について

下記の方針に対するご意見

- ✓ 認定活用の募集は株式会社を対象とする
- ✓ 支援者、被支援者としてのマッチングの募集は対象を絞らない
- ✓ マッチングの試行及び支援証明書の発行対象は狭義の支援（寄付）とする

論点③：WGにおける論点（アウトプット）と進め方

下記の方針に対するご意見

- ✓ 今年度のWGは全4回開催とし、認定の活用事例、マッチング結果と支援証明書（イメージ）、来年度の試行に向けた課題、地域計画への示唆をアウトプットとし、検討会に報告する
- ✓ 認定の活用、支援証明書の活用につき、それぞれの応募者に案を出していただき、当WG（第2回・第4回）等で直接FBを行う場を設ける（件数により詳細は変更の可能性あり）